

# こんなにも違う

## 「政令指定都市・名古屋」と「蟹江町」

政令指定都市には県から権限と財源が委譲され、また宝くじなどの独自収入も多く、他の市町に比べて、裕福となっています。これは大都市にふさわしい街づくりを進めるための国の政策によるものです。

名古屋市が市民のために遣ったお金（1年間）は、おおよそ1兆268億円で、一人当たり額は約45万円となります。

蟹江町は、おおよそ92億円で、一人当たり約25万円となっています。

（いずれも、一般会計の支出総額を単純に人口で割ったもの、平成25年度決算）

この数字から、住民のために使えるお金が、名古屋市のほうがはるかに多いことがよく分かります。

この財力から名古屋市は福祉を手厚くできるのです。

また、県からは県と並ぶ権限が名古屋市に委譲されていますので、市民に対し必要な施設を自前で造り、福祉計画、道路計画（政令市は国道、県道、市道を一括管理）、都市計画などを市独自で決定、必要な施策をスピーディーに実行できます。そのため専門的な職員も多く配置されています。

蟹江町は、小さなことでも、いちいち県にお伺いを立て、県の予算や指導を待って、ようやく施策が決められたり、決められなかったり、というのが実態です。名古屋市は自立した自治体として、市の責任において市民生活に対応します。



### 名古屋市との合併を目指す

## 「チーム to 名古屋」

リーダー 中村 英子

〒497-0043 蟹江町新千秋後西41-4 ☎0567-96-1056